



## PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2019年3月31日（土） 西日本決勝・最終日／滋賀GC  
大会結果のお知らせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会 >

◇最終日 = 3月31日 ◇滋賀・滋賀GC（15-18歳の部男子6974ヤード、パー72ほかカテゴリー別）  
◇出場150人 ◇晴れ時々曇り

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会 最終日 概況 >

IMG A世界ジュニア（7月9～12日、米カリフォルニア州サンディエゴ）の日本代表14人が決まった。

この日は強風が吹き荒れる悪コンディションとなり、各選手はスコアメイクに苦しんだ。

その中で、15-18歳の部男子では、前半インを1アンダーで回った亀井壮汰（香川・香川西高3年）が通算4オーバー148で第1日首位の蟬川泰果（宮城・東北福祉大1年）と並び、2人が世界ジュニア代表となった。副賞の男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権をプレーオフで争い、1ホール目のバーディーで勝った亀井が獲得した。

同女子は、杉浦愛梨（福井・福井工大付福井高1年）が74にまとめ、通算4オーバー148で1位となり、2年連続世界ジュニア代表を手にした。第1日首位タイだった益田世梨（岡山・岡山理科大付高2年）は通算6オーバーと杉浦に2打差の2位に食い込み、初めての代表となった。

13-14歳の部男子は前半イーブンパーで追いつけた吉田京介（大分・城北中3年）が通算8オーバー152で1位、2打差2位に新井龍紀（愛知・西部中3年）が入って世界切符を手にした。吉田はA b e m a T V ツアー「HEIWA・PGM Challenge II」出場権も獲得した。

同女子は井ノ下愛華（広島・松賀中1年）が通算10オーバー154で1位、2打差で左奈々（福岡・沖学園隆徳館中1年）が2位となり、ともに初めての世界ジュニア代表となった。



写真：左 = 15-18歳男子 亀井（左）と蟬川  
©IJGA2019

中 = 15-18歳女子 杉浦（左）と益田

右 = 13-14歳男子 新井（左）と吉田

## IMG A世界ジュニア日本代表は以下の通り。

### ▽15—18歳の部男子

【1位】亀井壮汰（香川・香川西高3年）=148

【2位】蟬川泰果（宮城・東北福祉大1年）=148

### ▽同女子

【1位】杉浦愛梨（福井・福井工大付福井高1年）=148

【2位】益田世梨（岡山・岡山理科大付高2年）=150

### ▽13—14歳の部男子

【1位】吉田京介（大分・城北中3年）=152

【2位】新井龍紀（愛知・西部中3年）=154

### ▽同女子

【1位】井ノ下愛華（広島・松賀中1年）=154

【2位】左奈々（福岡・沖学園隆徳館中1年）=156

### ▽11—12歳の部男子

【1位】進藤太雅（兵庫・鷹取中1年）=162

### ▽同女子

【1位】酒井理琴（大阪・淡路中1年）=154

### ▽9—10歳の部男子

【1位】岡村昂汰（兵庫・峰相小5年）=166

### ▽同女子

【1位】後藤あい（兵庫・甲南小5年）=153

### ▽7—8歳の部男子

【1位】山本昂生（福岡・筑紫東小3年）=161

### ▽同女子

【1位】飯田柚月（千葉・金杉台小3年）=151

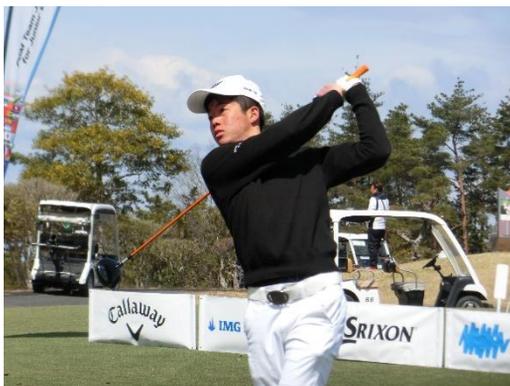
※同スコアはプレーオフによる

※所属は進学校、新学年で表記しています

## ＜PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会＞

### ◇最終日◇15—18歳の部男子◇3月31日◇滋賀・滋賀GC（6974ヤード、パー72）

亀井壮汰（香川・香川西高3年）と蟬川泰果（宮城・東北福祉大1年）が通算4オーバー148で首位に並び、世界ジュニア代表となった。プレーオフで副賞の男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権を争い、ともに2.5メートルほどのバーディーパットを先に打った蟬川が外し、亀井が決めて出場権を手にした。亀井は強風の中、前半インの11、13番で1.5メートル前後のバーディーが効いて、初めての日本代表。「まだ実感が沸きません。世界ではまだ飛距離が足りないと思うので、トレーニングをしてもう少し飛距離伸ばしていきたい」と今は260ヤードほどのドライバー飛距離のアップを課題に挙げた。蟬川は世界ジュニア出場に代表選抜大会が導入された2011年から挑戦してきた。「今回が最後だったので、優勝したかった。今日は風のジャッジが悪かった」と振り返り、昨年に続く出場に「今日のようなゴルフをしていたら通用しない。初心に戻って練習したい」と、最後の世界舞台に準備していく。



写真：左／15-18歳男子 亀井壮汰、右／15-18歳男子 蟬川泰果 ©IJGA2019

## <PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会>

◇最終日◇15-18歳の部女子◇3月31日◇滋賀・滋賀GC(6355ヤード、パー72)

杉浦愛梨(福井・福井工大付福井高1年)と益田世梨(岡山・岡山理科大付高2年)が日本代表を手にした。ともに第1日に首位を並走しており、追走する選手に譲らなかった。強風の中を74で回った杉浦は「ピンの奥に行かないようにできた。距離感がよかった」と笑顔を見せた。2年連続の代表で、昨年は13-14歳の部で19位と不本意な成績に終わった。年齢カテゴリーが1つ上がったが「ショットが左右に荒れることがあるので、修正していきたい。優勝を狙います」と意欲を見せた。初代表の益田は「世界ジュニアにいけてうれしい」とこちらも笑顔を見せ「前半を折り返して2位だったので、2位狙いで落ち着いて我慢してやりました」という。本番に向け「上がり下がりのない安定したプレーをしたい」と抱負を話した。



写真：左/15-18歳女子 杉浦愛梨、右/15-18歳女子 益田世梨 ©IJGA2019

## <PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会>

◇最終日◇13-14歳の部男子◇3月31日◇滋賀・滋賀GC(6974ヤード、パー72)

吉田京介(大分・城北中3年)が通算8オーバー152で、第1日首位に3打差3位から逆転で優勝、2015年9-10歳の部以来の日本代表となった。2打差で新井龍紀(愛知・西部中3年)が2位に粘り、初めての世界代表を手にした。吉田は「アンダーパーで回るつもりだった」とい前半インでは2バーディーを奪うなどイーブンパーで回って逆転した。最終9番では「これを入れないと世界ジュニアに行けないと思って根性で入れました」と、2メートルのパーパットを沈めた。4年ぶりの世界舞台に「世界ジュニアは3日間大会なので、強い人が勝つという印象があります。100ヤード以内の精度を高めていきたい」と話した。新井は「今日は2メートルぐらいのパーパットが5, 6回入った。うまくいきました」と振り返った。兄・隆一も第1日に15-18歳の部で2位につけており、兄弟での世界舞台を目指した。兄は残念ながら4位に終わったが、弟は見事に射止めた。「今日は楽しもうと思ってたまたまパターが入っただけで、あまり自信はないです」と、表情が少し硬かった。



写真：左/13-14歳男子 吉田京介、右/13-14歳男子 新井龍紀 ©IJGA2019